

平成24年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ リタ ヤス
氏名 脇田 泰子

研究期間 平成24年度

研究課題名 第二次世界大戦前から戦後にかけてのフランスに於ける日本文化理解
～エレーヌ・ジュグラリスの歌劇「ハゴロモ」を中心に～

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	脇田 泰子	文化情報学部	准教授
研究分担者	渡邊 康	教育学部	准教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

静岡市清水区の三保の松原には、二つの世界大戦間のフランスに生きた女性舞踊家、エレーヌ・ジュグラリスの記念碑が立っている。彼女は日本情報の乏しかった時代に、謡曲「羽衣」のレコード音源や写真の資料だけを頼りに、彼女が考えるオリジナル作品としての歌劇「ハゴロモ」の制作を試みた。1949（昭和24）年のパリ初演から程なく彼女は亡くなったが、当時のフランスで本来、敵国であるはずの日本の文化がどう受け止められていたのかを探るとともに、遺稿の楽譜に記された音を忠実に再現することで、彼女が考えた能や、ついに訪れることなく思いを馳せた「日本」らしさが、音楽でどのように表現されていたのかを明らかにする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

第二次世界大戦前から戦後1950年代のフランスで、日本の芸術や文化に関する情報がどの程度、入手可能で、どのように受け止められ、フランス人がどのような点に対して日本的な魅力を感じていたのかについて、当時のメディア情報などの調査を通じて浮き彫りにする。また、上記の故・エレーヌ・ジュグラリス自筆の歌劇「ハゴロモ」の楽譜を入手し、そこに指示されているソプラノ、フルート、パーカッションの各パートの楽譜を作成したうえで、名古屋在住の音楽家の手を通じて、歌劇「ハゴロモ」の舞踊を除いた音楽の試演を行い、一部始終を収録する。その音源と映像の素材からハゴロモの音楽部分の番組を編集・制作し、ネット上で公開することで、フランスから見た日本文化の魅力のありようについて、広く一般向けにも伝える。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

エレヌが残した楽譜は静岡市に保存されていたもので、単旋律にローマ字の歌詞がついた自筆譜面と、地謡、笛、大つづみと小つづみのアンサンブル譜面である。単旋律のものはシテ(主人公)の「ハゴロモ」の漁夫と天女の登場場面全曲であることが判明した。アンサンブル譜面は、漁夫と天女の登場場面の一部分であった。どの部分であるかも判明できる内容であった。しかしどちらも走り書きに近く、そのままでは演奏不可能だったため、コンピューター浄書ソフトにより演奏可能な形に整理し直し、パート譜を作成して文化情報学部スタジオにて演奏家に演奏を依頼し、録音録画したものを web サイト YouTube に掲載した。「歌劇ハゴロモ」～遺稿楽譜より part1 および part2、としてアップロードしたものである。

メゾソプラノによるシテの全曲は、歌詞ははっきりしていたが、流派を特定できなかった。アンサンブル(囃子)は、西洋音楽の楽譜化によって音程や音価が定量的になり、オリジナルの囃子の表現と大きく異なるものであるという結論に達した。ただ、その演奏から得る印象は西洋音楽でなく、明らかに囃子であった。しかしながら、地謡の楽譜は、五線譜面に表そうとしても、音程との長さ、間やかけ声の記述が困難である上、鼓のかけ声や音程変化も微妙であるため、記述できないことが浮き彫りになった。

エレヌ本人に関しては、フランスの新聞メディアの電子検索を相当量、執り行ったが、彼女の夫で仏紙日本特派員を20年以上務めたマルセルが2010年に他界した際の訃報記事に関連して「能に魅せられた」と出てくるだけであった。また、入手した歌劇「ハゴロモ」の49年パリ初演時の新聞記事の写真を手掛かりに現物を当たったところ、写真が不鮮明で確認しにくいながらも、廃刊になっているようだ、との回答をフランス側から得た。以来、調査は保留のまま、残された方法としては、パリの国立図書館に保存されている1950年前後の新聞をくまなく当たる以外には考えにくく、現地調査に出向くことが当面の最優先課題になっている。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①ハゴロモ	②エレヌ・ジュグリス	③楽譜の浄書	④囃子の五線譜化
⑤音の定量化	⑥遺稿楽譜による実演	⑦日仏交流	⑧日仏文化

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なものの数件を記載。)

エレヌに関する現地調査を再開し、具体的な成果が得られた時点で、その背景となる二大戦間から戦直後にかけての日仏文化交流の大きな枠組みや、その他、特にフランスでその魅力が見出され、愛された日本文化の事例とも合わせて論文を執筆し、紀要・専門誌等に投稿する予定である。

静岡市に保存された楽譜以外に、完成度の高い楽譜がフランスの関係機関に保存されていないかどうかを調査し、その発見があれば、より精度の高い再現が可能となる。その上で、衣装も含めて『ハゴロモ』の上演を試みたい。特に、西洋音楽の五線譜には記述できなかった部分をも考察し、その部分を付け加えての上演も試みる。